

目的 現代の日本の結婚事情の特徴として、女性の晩婚化や男女の適齢期人口の格差による結婚難があげられている。このような状況のなかで実際に結婚生活を送っている20歳代の男女はどのような意識をもって実生活を送っているのだろうか、本研究では、結婚3年以内の20歳代男女について結婚の意識やファッション意識の調査を行い、若者の男女間の差異について比較検討することを試みた。また、40～50歳代女性は生育した社会的環境が現代とは異なり、20歳代女性とは世代間の異なりが見られると考えられるため、結婚意識やファッション意識について20歳代の女性と比較、検討し若者と中年の女性の世代の差異を考察することを目的とした。

方法 調査資料は、①20歳代女性 165名、調査時期は平成2年度の原票、②20歳代男性 117名、調査時期は平成3年度の原票、③40歳代女性 264名、調査時期は平成4年度の原票を用いた。調査内容は、①基本属性、②結婚の実態、③披露宴の衣装のイメージ、④結婚に対する意識、⑤ファッション意識である。20歳代男性、20歳代女性、40～50歳代女性それぞれを単純集計し、項目ごとに概要を把握した。ついで、20歳代男性女性間のクロス集計、20歳代女性と40～50歳代女性のグループ間のクロス集計を行い、カイ二乗値による有意性の検定を行った。さらにクラマー係数を算出し関連度について考察した。資料別に各項目の因子分析を行い特定変数間の関連を明らかにし、特性を把握した。

結果 20歳代の男女間には結婚の意識や態度に関連があり、同世代の性差による異なりは少なく、結婚や家庭に関する考え方、衣生活の着装方法に共通性が認められた。20歳代と40～50歳代の女性間では結婚や家庭に関する考え方は関連があり世代による差異は少ないが、ファッション行動や意識には世代の差が現われている。